

教科目名 材料学Ⅱ (Materials Science Ⅱ)

学 科 名 ・ 学 年 : 機械工学科 4年

単 位 数 等 : 必履修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間45時間)

担 当 教 員 : 伊東 徳

授業の概要		
3年で学んだ材料学について、鋼の状態図と恒温変態図について学ぶ。状態図と恒温変態図を基にして、鋼の化学組成による組織変化や焼入れ、焼戻しなどの熱処理を理解する。機械設計においては、強度計算だけではなく腐食対策や熱処理などの材料の面からも検討する意義を理解する。		
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (d1③) (g)
(1) 鋼の状態図と恒温変態図の両方を使って鋼の諸性質を理解する。(定期試験とレポート)		
(2) 鋼の焼入れ性について理解する。(定期試験とレポート)		
(3) 合金鋼と普通鋼の違いを恒温変態図から考える。(定期試験とレポート)		
回	授 業 項 目	理 解 度 の 自 己 点 検
1	第1章 製鉄と製鋼	【理解の度合い】
2	1.1 鉄鉱石の種類	
3	1.2 溶鉱炉	
4	1.3 製鋼法	
5	第2章 純鉄の変態と組織	
6	2.1 同素変態	
7	2.2 磁気変態	
8	2.3 まとめ	【試験の点数】 点
8	前期中間試験	【試験の点数】 点
9	第3章 炭素鋼の状態図と組織	【理解の度合い】
10	3.1 状態図の作り方	
11	3.2 共析変態	
12	3.3 鋼の組織に及ぼすC%の影響	
13	3.4 鋼の性質に及ぼす不純物の影響	【試験の点数】 点
14	前期期末試験	
15	前期期末試験の解答と解説	【試験の点数】 点
16	第4章 鋼の熱処理	【理解の度合い】
17	4.1 冷却速度と変態温度	
18	4.2 鋼の焼入れ性	
19	4.3 各種の合金鋼	
20	第5章 恒温変態	
21	5.1 恒温変態図の作成	【試験の点数】 点
22	5.2 普通鋼の恒温変態図	
23	後期中間試験	【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説	【理解の度合い】
25	5.3 合金鋼の恒温変態図	
26	5.2 恒温変態を応用した処理法	
27	第6章 腐食と防食	
28	6.1 腐食電池の形成	
29	6.2 防食対策	
30	後期期末試験	【試験の点数】 点
30	後期期末試験の解答と解説	【試験の点数】 点
履修上の注意	講義中分からなければその場ですぐ質問すること。	【総合達成度】
教科書	門間 改三, 「大学基礎機械材料」, 実教出版。	
参考図書	門間 改三, 「鉄鋼材料」, 実教出版。 堀内 良, 金子 純一, 大塚 正久, 「材料工学入門」, 内田老鶴圃。	
関連科目	機械工作法, 機械工作法Ⅱ, トライボロジー, 機械設計法, 物理Ⅰ, 化学Ⅰ, 材料学Ⅱ	
総合評価	達成目標の(1)~(3)について, 4回の定期試験(90%)とレポート(10%)で評価する。授業態度により評価点からその20%を上限として減点しこれを総合評価とする。総合評価が60点以上を合格とする。	